

# 埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7  
TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL:<http://www.sairingi.com/>  
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

## 第59回 埼玉県公衆衛生大会 開催 当会推薦の6名が埼玉県公衆衛生事業功労者表彰される。

第59回埼玉県公衆衛生大会が、平成27年10月23日(金)にさいたま共済会館にて開催されました。この式典の中で公衆衛生事業功労者として、埼玉県臨床検査技師会推薦による小山博史氏、佐藤一穂氏、白石一也氏、長岡勇吾氏、長谷川隆氏、藤井豊善氏(五十音順)の6名が表彰を受けました。

今年度の上記功労者は個人102名、団体は一つ、また、同時に国民健康保険関係功績者の表彰も行われ、こちらは診療報酬委員会から委員4名、療養担当者から16名、関係役職員から29名、同功労者から1名が表彰を受けました。この内の関係役職員の中に川口市立医療センターの職員として生天目和義氏が居られ、合せて7名の当会会員が表彰されました。受賞されたみなさん、誠におめでとうございます。

式典の主催者挨拶には、出張中の上田知事に代わって塩川修副知事から少子高齢化の話が紹介され、埼玉県は全国一の「高齢化率」を保っており是非とも健康寿命・長寿プロジェクトを成功させたい、という決意を述べられました。表彰された個人・団体の名前が読み上げられた後に来賓祝辞としては、県議会議長・本木茂氏、次に県医師会長・金井忠男氏が述べられました。本木議長は公衆衛生の歴史に触れられ、金井会長は地域包括ケアシステムを含めた医療行政に触れられていました。このあと、受賞者を代表した医師の方から謝辞が述べられて、式典は一旦終了とされました。

これ以降に、表彰された方々が副知事、議長を囲んだ記念写真の撮影が行われました。それも終了した後に、当会会員の皆さんだけが納まった記念写真を撮って式典会場をあとにしました。

(なお、小山氏は業務都合により式典は欠席されました。)

(文責: 津田聰一郎)



写真左より 津田会長、佐藤氏、長谷川氏、白石氏、藤井氏、長岡氏、神山副会長

### 受賞者 喜びの一言

さいたま市民医療センター 佐藤 一穂

このたび、第59回埼玉県公衆衛生大会において公衆衛生事業功労者として埼玉県知事より表彰を

受けでまいりました。栄誉ある受賞に際しまして、ご推举を賜りました津田聰一郎会長ならびに埼臨技執行部の皆様に厚く御礼申し上げます。

今回の受賞は、研究班や臨床検査精度管理・がん検診での活動が評価されたものと考えますが、私に活動の場を与えご指導下さいました前職の小花登代子技師長をはじめとする職場の皆様、大宮医師会の諸先生方、技師会研究班など皆様のおかげと思っております。この場をお借り御礼申し上げます。

この賞を励みとし臨床検査による社会貢献を目標に微力ながら努力致す所存です。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。このたびは誠にありがとうございます。

### 川口工業総合病院 白石 一也

この度、第59回埼玉県公衆衛生大会にて埼玉県公衆衛生功労賞を受賞させていただきました。ご推薦いただきました津田会長をはじめ、ご尽力頂いた理事の方々には深謝いたしますとともにこの場をお借りして御礼申し上げます。

今回の受賞は、輸血検査研究班、埼玉県医師会精度管理委員等の活動を評価していただいたものと思います。活動に際し様々な援助、ご指導をしていただいた川口工業総合病院の諸先輩方並びに輸血検査研究班の皆様に感謝申し上げます。

今後とも微力ながら地域医療並びに技師会活動に努力してゆきたいと思います。誠にありがとうございます。

### 浦和医師会メディカルセンター 長谷川 隆

このたび、10月23日(金)に開催された第59回埼玉県公衆衛生大会の席上において公衆衛生事業功労賞を受賞させていただきました。栄誉ある賞の候補者としてご推举を賜り、津田聰一郎会長はじめとする埼臨技執行部の皆様に厚くお礼申し上げます。

今回の受賞は、埼臨技が開催した学会・研修会の運営支援業務における、生涯教育委員としての活動を評価していただけたものと考えております。今まで活動を継続してこられましたのも、職場の皆様、浦和医師会執行部の先生方、技師会の諸先輩方の温かい力添えがあったからこそと思っております。この場をお借りして感謝申し上げます。

今後も微力ながら技師会の発展に誠意をもって努力してまいりますので、一層のご指導ご鞭撻をいただけますように、お願い申し上げます。このたびは誠にありがとうございます。

### さいたま赤十字病院 長岡 勇吾

この度、10月23日に開催されました埼玉県公衆衛生大会にて、埼玉県公衆衛生事業功労賞を受賞させていただきました。このような榮えある賞をいただけましたこと埼玉県臨床検査技師会津田会長をはじめとする理事の皆様、諸先輩の皆様に感謝申し上げます。まことにありがとうございました。

今回の受賞は、自分にとって文字通り身にあまる光栄です。今後の活動において、受賞を大きな励みに公衆衛生向上へ微力ながら貢献できればと思っております。

これまで職場の皆様にご理解をいただきお力添えを受けたこと、埼玉県臨床検査技師会理事や監事、事務員の皆様、研究班の諸先輩方にご指導していただいたことを深く感謝するとともに、今後も頑張っていく所存ですので、一層のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

### 蕨市立病院 藤井 豊善

このたび、第59回埼玉県公衆衛生大会において、公衆衛生事業功労賞を受賞させていただきました。この榮えある受賞に際して、ご推薦をいただきました公益社団法人埼玉県臨床検査技師会 津田聰一郎会長をはじめとする埼臨技執行部の皆様及び諸先輩方に深く感謝申し上げます。今回の受賞は、埼玉県臨床検査技師会に入り35年目を迎えるにあたり、その間多くの諸先輩方の指導により学会等技師会活動にささやかですが関わることが出来た賜であり、技師会を通して巡り会えた良き指導者・仲間に感謝いたします。

この名誉ある受賞を励みに、微力ではございますが技師会の発展のために貢献できればと感じます。誠にありがとうございました。

### JCHO埼玉メディカルセンター 小山 博史

第59回埼玉県公衆衛生大会にて埼玉県公衆衛生事業功労者に対する知事表彰を受賞させていただきました。推薦に際しましてご尽力いただきました津田聰一郎会長をはじめとする埼臨技執行部の皆様に深謝いたします。

今回の受賞は、研究班、各種委員会、理事に対し評価いただけたものと思いますが、このような活動を支えていただいた当施設の皆様に感謝いたします。また、埼臨技の歴代執行部の先輩方、研究班の先輩方にもたくさんのご指導いただき、誠に感謝しております。

今後も微力ながら埼臨技の発展に寄与できればと考えております。引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

### 祝 小崎繁昭氏 旭日小綬章 受章

当会名誉会員であられる小崎繁昭 元埼臨技・日臨技会長の旭日小綬章受章が11月3日に公表されました。会として誠に喜ばしきことであり謹んでお慶び申し上げます。

### 平成27年度 第1回 検査室運営研修会

### 医療従事者に必要な接遇スキル!!

～接遇から職場環境を見直しませんか？もっと楽しく仕事をするために!!～

検査室管理運営委員会主催の、平成27年度第1回検査室運営研修会が、去る10月2日(金) 19時より大宮ソニックスティ906号室において開催されました。

今年度第1回目の企画は、病院・その他職場環境において必要不可欠とされる“接遇”をテーマとして取り上げ、幅広い層の会員参加を目的としました。



講師の鎌北郁子氏

講師には、平成26年度 日臨技・埼臨技主催“検査説明・相談が出来る臨床検査技師育成講習会”カリキュラムの中で接遇研修を担当して頂き大好評を得た、埼玉医科大学病院の看護師長で、接遇インストラクターとしてもご活躍の鎌北郁子氏をお招きし、ご講演いただきました。

講演は冒頭より、挨拶の基本である“語先後礼”に始まり、接遇の五原則である“挨拶”“身だしなみ”“表情”“態度”“言葉遣い”について、病院という特殊な環境での事例等を交え進んでいきました。会場狭しと左右前後・机間 通路まで進出して参加者一人一人とアイコンタクト・身振り手振りを加えながら、鎌北先生自らが接遇の基本を実践していく立ち居振る舞いに会場全体が圧倒された雰囲気でした。病気ではないかと、不安を抱き病院を訪れる人が、心地よく診察・検査を受け、安心して病院を後にするため、挨拶・笑顔・姿勢・語調など接遇の基本の上に、常に「目配り・気配り・心配り」を忘れずに相手の立場などを理解して行動すること。また、検査技師が不得意とするコミュニケーションの取り方として、会話力を高める基本原則についても会場の参加者と会話のキャッチボールを楽しむように実践していました。先入観や思い込みにとらわれないことや、傾聴の技法・ボディランゲージなども交え、会話力の上達につながるテクニックを伝授してい

ただきました。研修の合間に、接遇・会話力等の基本原則の活用練習として隣や周囲の方との会話やボディランゲージの練習も取り入れ、あっという間に終了時間を迎てしまいました。

接遇というと何か堅苦しいイメージがありますが、先生の講演を聴いて相手のことを尊重し敬意を持って接すればクレーム等の問題も減少し仕事がスムーズに、気持ち良く、楽しく、出来るような気持ちにさせられました。講演最後に伝授された“ありがとう!!”の気持ちを常に持ち、今回の接遇研修で学んだことをこれからのお仕事に役立てていきたいと感じました。

(文責: 藤井豊善)

# 第44回 埼玉県医学検査学会だより

學術部長 伊丹 直人

第1回の実行委員会が開催されてからもう1年になります。素人ながら実行委員一同、色々な意見を出し合い、壁にぶつかりながら右往左往して進めてまいりました。この「だより」が届く頃には抄録が会員の皆様に届けられ、一般演題のスライド原稿も揃ってPCへのアップ作業の準備に追われていることだと思います。

これが学会内容についての最後のご案内になります。詳細は抄録をご覧いただきたいと思います。

まずはランチョンセミナーについてです。各社の企画内容と講師を拝見すると相当にレベルが高く、まさに全国レベルです。整理券は朝一番から配布です。売り切れ必至！早めに確保することをお勧めします。

続いてヤングジェネレーションセミナーと学会企画Ⅰ・Ⅱを紹介したいと思います。

ヤングジェネレーションセミナーでは大宮アルディージャの塚本泰史氏をお迎えします。スライド原稿を拝見しましたが、若い方はもちろん、医療従事者であれば（特にサッカーファン）グイグイ引き込まれるお話しになると思います。これから臨床検査技師として大きく成長していくために、患者側の視点を学んでみませんか。

学会企画 I ではクイズ形式・対話形式のプレゼンを準備しました。100台のリモコンで会場からの回答を即座に集計します。当たったり間違ったり、200名でがんに関する知識を点検してみましょう。ランチョンセミナー終了後、会場前で整理券を配布します。

学会企画Ⅱは超音波検査をライブ映像で見る企画です。JAMT技術教本の執筆など第一線で活躍されている関根先生をお招きしての講義と実技で、がんを見落さないための正しい検査の進め方を学びましょう。

以上3つの企画は市民ホール2部屋をつなげ、収容人数を増やして準備いたします。実行委員一同、会員各位に役立つ情報を発信できる学会になるように当日まで精一杯努力して参ります。12月6日、振ってご参加ください。

## 【訂正とお詫び】

抄録に掲載されましたチーム医療の座長割り当てに間違いがありました。訂正してお詫びいたします。

チーム医療 1~3 埼玉県立小児医療センター 神嶋敏子氏

チーム医療 4~7 深谷赤十字病院 野瀬和彦氏

チーム医療 8~12 上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院 小島徳子氏

## 深谷市福祉健康まつり開催される

10月24・25日、深谷ビックタートルにて深谷市福祉健康まつりが開催されました。

埼玉県臨床検査技師会は、25日に深谷ビックタートル内にある研修会議室で簡易血糖測定と健康相談を行いました。

私を含め、今回初めて簡易血糖測定器を使用する実務委員もいましたが、測定時の落ち着きぶりと対応が素晴らしく、皆さんの検査技師としてのプロ意識の高さに感心させられました。

すでに恒例となっている血糖測定には早々と来場者が集まり始め、開始予定時刻よりもややフライング気味の9時50分開始となり、一時は会場内に長蛇の列ができました。

また血糖検査を行うだけでなく、健康まつり会場内で埼臨技ロゴの入ったポケットティッシュ配りの宣伝活動や研修会議室への呼び込みに励むなど、みんなの頑張りで500名弱の血糖測定ができました。



今回、埼臨技学術顧問の櫻林郁之介先生（自治医科大学さいたま医療センター名誉教授）に診療所監督医師を務めて頂き、また自治医科大学さいたま医療センター内分泌代謝科 船崎俊介先生にも健康相談をお手伝いいただきました。お二人の先生には休む間もないほど多くの市民の相談に乗っていただき、非常に感謝しております。

最後に参加していただいた実務委員、賛助会員の皆様には心より御礼申し上げます。

(事業部：神嶋敏子)

### 各研究班の研修会報告を致します。

#### テーマ 救急領域の輸血

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成27年9月16日 19時00分～20時45分

会 場：大宮ソニックシティ 602号室 点数：専門教科－20点

講 義 1：救命の最前線 救急救命士の立場から

講 師：清水 貴好氏（越谷市消防署 警防第1中隊 第2救急隊長）

講 義 2：救急医療の現場と輸血治療 医師の立場から

講 師：上笛貫 俊朗医師（獨協医科大学越谷病院 救急医療科）

参加人数：会員89名 賛助会員2名

出席した研究班班員：渡邊一儀 山田攻 佐藤祥子 神戸考裕 長谷川卓也 今井厚子

研修内容・感想など

今回の研修会は「救急領域の輸血」というテーマで2つの講演をお願いした。まず、清水氏に「救命の最前線 救急救命士の立場から」という内容で講演していただいた。救急救命士が行うことのできる救急救命処置の内容や、救急隊の現場活動、病院選定の現状など、実例を含

めての講演内容であり、救急救命士である清水氏ならではの内容であった。特に救急通報を受けてから現場に到着するまでの間に、傷病者の年齢、性別、症状、時間帯や季節などによって病態を推測し、必要機材を選択、仮の搬送病院まで選定しておくという話は興味深い内容だった。

次に、上笹貫医師に「救急医療現場における輸血療法の現状」というテーマで講演していた。出血性ショックにおける診断、治療を中心に実際に実際行われる検査、初期輸液療法、そして輸血療法と分かりやすく説明していただいた。

特に、救急医療の現場を実際の動画で見せていただき貴重な内容となった。最後には先日大雨に襲われ鬼怒川が氾濫した茨城県にDMATとして参加された経験談を写真など含めて紹介していただき、マスコミなどで報道されている以外の被害と支援が多くあることを痛感した。

今回の2つの講演を聞き、私達臨床検査技師が普段経験することの出来ない「救急医療の現場」を現場で活躍されている方々から直接話を聞けたことは、とても貴重だと感じた。

この研修会の内容を参考にして、各施設において救急現場との交流を深め、最善の輸血療法を行える体制作りのきっかけになれば幸いである。

(文責：今井厚子)

## テーマ 結核・非結核性抗酸菌について

主催 微生物検査研究班・公衆衛生検査研究班

実施日時：平成27年9月18日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科－20点

講 師：永禮 旬（極東製薬工業株式会社 総括部 顧問）

参加人数：会員63名 賛助会員12名

出席した研究班班員：

微生物：永野栄子 金田光穂 砂押克彦 牧俊一 佐藤里香 酒井利育 小西光政

公衆衛生：阿保一茂 長崎広美 穴原賢治 立塚梓 菊地孝司

研修内容・感想など

岡山県を中心に長年ご活躍され、現在は極東製薬工業株式会社で総括部顧問となった永禮（ながれ）氏を講師に迎え、『結核・非結核性抗酸菌について』のテーマで研修会を行った。講義は①結核の現状、②抗酸菌検査の特性、③非結核性抗酸菌についての解説で、内容は以下のとおりであった。

①結核の現状では、2013年罹患率は全国で16.1（埼玉県14.5）と微減傾向であったものの26.4～7.7と地域に大きな差があること、平成25年度新規登録患者は依然として70歳以上の高齢者が57.4%を占めていること、近年は集団感染事例が増加していることも注目すべき点のことであった。

②抗酸菌検査の特性では、検査一連の流れをフローチャートで提示、直接・集菌法による塗抹は3日間連續で実施することで累積陽性率が90%以上に上がること、適切な前処理実施による雑菌汚染率の許容範囲は2～5%で、固体と液体それぞれの培地には利点と欠点があり併用が望ましいとのことであった。

③非結核性抗酸菌（NTM）では、NTM症死亡数は増加傾向である。NTMに代表するMycobacterium avium complex(MAC)は池・沼などの水や土壤、トリ・ブタ・ウシなどの動物を含む自然環境や水道水、飲料水システム、シャワーヘッド、プールの水などの居住環境に広く生息しており、病院施設では洗面所や排水口、蛇口などから多く分離されている。遺伝子解析や質量分析法の進歩により2013年160菌種7亜種の抗酸菌分類は今後さらに増加するであろうとのことであった。

今回の講義は、微生物を担当する私達技師にとって改めて『抗酸菌の知っておきたい現状と検査の進め方』を考える良い機会となった。これから経験を積まれる若手技師のみなさんにも、抗酸菌検査は過去のモノではない！ということを知っていただき、今後も抗酸菌に関する研修会を企画したいと考える。

(文責：小西光政)

## テーマ PSA測定の現状と将来

主催 血清検査研究班

実施日時：平成27年9月18日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科－20点

講 師：徳永 哲士（ベックマン・コールター株式会社）

参加人数：会員26名 非会員1名

出席した研究班班員：齊藤雅一 庄司和春 相坂由里子 鈴木敦子 持田和紀

大島まり子 佐野悦子

研修内容・感想など

今回はPSA検査についての現状と今後の展望について講演していただいた。講演内容は、「腫瘍マーカーの定義と問題点」と「続いて前立腺疾患とPSA検査」についてであった。

腫瘍マーカーの問題点として、腫瘍細胞以外の良性疾患や喫煙などの生活習慣で上昇すること、また臓器に特異的なマーカーが少ないとなどを解説していただいた。

次に、PSAは臓器特異性は高いが4～10ng/mlのグレーデーンにおいては癌の可能性は25%程度であり、前立腺肥大症や前立腺炎などの陽性疾患でも上昇するため臨床診断の特異性は極めて低い。そこで、近年診断効率をあげるためにPSAの前駆物質であるpro PSAのアイソフォームである[-2] pro PSA (p2PSA) の臨床応用が検討されている。Total PSAとfree PSAと組み合わせて検査することにより診断効率を上げ、癌の早期発見、不要な生検の回避が期待でき、今後の臨床応用が期待されているとのことであった。

(文責：佐野悦子)

## テーマ スギ花粉症免疫療法～舌下免疫療法と皮下免疫療法～

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：平成27年10月23日 19時00分～20時45分

会 場：大宮ソニックシティ 602号室 点数：基礎教科－20点

講 師：原 瞳子（上尾中央総合病院 耳鼻咽喉科）

参加人数：会員26名 非会員1名（医師）

出席した研究班班員：穴原賢治 阿保一茂 鈴木勤 立塚梓 長崎広美 菊地孝司

研修内容・感想など

講師に耳鼻咽喉科専門医の原先生をお招きし、スギ花粉症を中心としたアレルギー性鼻炎に対する免疫療法に関してご講演いただいた。免疫とアレルギーの基本的な部分から免疫療法の詳細な部分に亘るまで大変分かり易く説明していただいた。

スギ花粉を原因としたアレルギー性鼻炎いわゆるスギ花粉症は、日本に特有の花粉症で、現在では国民の25%以上がスギ花粉症と報告されている。花粉症患者の低年齢化や、各種食物アレルギーの同時発症も増えていることから、医薬品メーカーを中心としてアレルギー治療に力が注がれている。免疫療法は別名「減感作療法」として知られており、低濃度のアレルゲンの接種から始め、徐々に濃度を上げて接種し、体をアレルゲンに慣れしていく。現在のところ皮下免疫療法と舌下免疫療法の2種類ある。皮下免疫療法は注射による侵襲性があり通院頻度も多いが、舌下免疫療法は患者への侵襲性がなく通院の頻度も少ないなどの理由により最近採用されつつある。舌下免疫療法は2014年10月に導入されたばかりとまだ間もないが、アレルゲンを経口的に接種する方法であり、自宅で服用可能という利点がある。ただし、数は少ないものの副作用が出ることもあり、正しい使用方法を守る必要がある。どちらの治療法も3～5年と継続して取り組む必要があり、患者には忍耐力が求められる治療法であるが、治療後の症状消失や改善が顕著に認められることから、今後、その効果には大きな期待が持てる。

(文責：菊地孝司)

## テーマ 輸血検査における異常反応への対応～血液型から不規則抗体まで～

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成27年10月16日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 603号室 点数：専門教科－20点

講 師：神戸 考裕（関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所）

参加人数：会員87名 賛助会員4名

出席した研究班班員：渡邊一儀 山田攻 佐藤祥子 神戸考裕 長谷川卓也 武関雄二

研修内容・感想など

今回の研修会は異常反応への対応をテーマとした。流れとして、まず基本的な患者背景や初見検査値と血液型検査および不規則抗体検査のデータを示し、その所見に対して①原因として何が考えられるか、②必要な追加検査、追加情報は何か、③医師へ報告すべきことは何か。この3点に関してグループディスカッションをしてもらい代表グループに発表をしてもらった。その後、講師の神戸氏に解説をしていただいた。この流れで4症例についてディスカッションをおこなった。

1症例目は血液型の異常反応としてオモテ検査とRhD検査において弱反応を認めた血液型検査の判断基準や輸血製剤選択を問われる症例だった。2症例目は不規則抗体陽性で複数抗体もしくは複合抗体が疑われた複合抗体の知識と鑑別方法が問われる症例だった。3症例目は不規則抗体陽性で4抗体の複数抗体が疑われ、肯定もしくは否定するために必要な確認検査が問われる症例だった。4症例目は妊婦における不規則抗体陽性の場合で、抗体の特性により輸血に対する臨床的意義と新生児溶血性疾患に対する臨床的意義を問われる症例だった。

限定された時間内でのディスカッションだったが、他施設と話し合いをすることで対応や考え方の違いを知る機会になったとの声があった。症例の内容的には比較的、出会い安いものから、稀なものまであったが輸血検査において、異常反応への「気付き」と「対応」は輸血療法の安全性に直結するため、今後も様々な例をあげて継続的に開催するべき有意義な研修会だとと思われた。

(文責：渡邊一儀)



## 平成28年賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会開催のご案内

日 時：平成28年1月8日（金） 18:30～21:00

会 場：ラフレさいたま 4階 『櫻の間』

会 費：8,000円

問い合わせ先：さいたま市立病院 中央検査科 長澤英一郎

TEL：048-873-4411 内線2276

FAX：048-873-4158

E-mail：hsp-chuuoukensaka@city.saitama.lg.jp

## 平成27年度 公益社団法人埼玉県臨床検査技師会 第7回 理事会議事録

日 時：平成27年10月8日（木）19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：I. 行動報告 II. 報告事項

III. 承認事項 IV. 議題

出 席：(理事)津田 島村 岡田 矢作 小山  
奈良 長岡 伊藤 猪浦 松岡  
濱本 藤井 長澤 神嶋 山口  
武関 烏山 野瀬

(監事)遠藤

本日の理事会の出席者は19名であった。理事の出席者は18名で、現在数20名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、津田聰一郎会長が務めることとなった。

I. 行動報告 (平成27年9月10日～平成27年10月7日)

9月10日(木) 平成27年度公益社団法人第6回理事会：

津田、神山、島村、岡田、矢作、  
奈良、猪浦、長岡、伊藤、松岡、  
濱本、藤井、長澤、神嶋、山口、  
野瀬、遠藤、細谷

9月12日(土) リレーフォーライフさいたま：

津田、島村、岡田、猪浦、長岡

9月12日(土) リレーフォーライフさいたま実行委員長柏浦恵子氏へ挨拶：津田

9月17日(木) わらび健康まつり第3回実行委員会：濱本

9月17日(木) 川口保健所診療所開設許可申請：藤井

9月18日(金) 第44回埼玉県医学検査学会第11回実行委員会：岡田、長岡

9月25日(金) 第45回埼玉県医学検査学会第1回実行委員会：

津田、猪浦、長岡、長澤、武関

9月28日(月) 川口保健所診療所開設許可書受取：藤井

10月 1 日(木)深谷市福祉健康まつり第2回実行委員会：濱本  
 10月 2 日(金)第55回全国国保地域医療学会開会式出席：津田  
 10月 2 日(金)第1回検査室運営研修会：  
     津田、神山、矢作、奈良、長岡、  
     伊藤、濱本、藤井、長澤、神嶋、  
     武関  
 10月 2 日(金)深谷市福祉健康まつり会場会議室利用許可申請：濱本

## II. 報告事項

### 1 事務局

- 1) 第9回埼玉医療安全大会の後援の回答を行った。
- 2) 10月 2 日、第55回全国国保地域医療学会開会式・交流会に津田会長が出席した。
- 3) 「一般検査TOCHIGIセミナー」の共催受諾の回答を行った。

### 2 総務部

- 1) 「埼臨技だより」第437号、10月15日発行予定

### 3 事業部

- 1) 9月17日、川口保健所へ、全国検査と健康展（わらび健康まつり）における診療所開設申請を行い、9月24日に開設許可が下りた。
- 2) 9月17日、わらび健康まつり第3回実行委員会へ濱本が出席した。  
 10月21日の第4回実行委員会には藤井副部長が出席予定。
- 3) 10月 1 日、深谷市福祉健康まつり第2回実行委員会へ出席した。
- 4) 10月 2 日、第1回検査室運営研修会が開催された。

### 4 学術部

- 1) 臨床化学研究班より秩父セミナーでの電子領収証の使用について
- 2) 日臨技より精度管理調査試料についての案内があった。
- 3) 生理研究班より来年1月に認定心電技師の研修会開催予定について
- 4) 第17回関甲信支部・首都圏支部遺伝子・染色体検査セミナーについて

### 5 精度保証部

- 1) 平成27年日臨技精度保証施設認証申請可能施設について

### 6 会計部

- 1) 平成27年度正会員費16名分80,000円、入会金16名分16,000円、合計96,000円の入金があった。
- 2) 平成27年度全国「検査と健康展」の助成金500,000円の入金があった。
- 3) だより第436号印刷代141,826円を石井印刷に支払った。

### 7 精度管理委員会

- 1) 特になし

### 8 一都八県会長会議

- 1) 特になし

### 9 日臨技関甲信支部

- 1) 特になし

### 10 日臨技

- 1) 1月23日、臨時総会開催予定。

### 11 第44回埼玉県医学検査学会

- 1) 9月18日、第11回実行委員会を開催した。

### 12 第45回埼玉県医学検査学会

- 1) 9月25日、第1回実行委員会を開催した。

## III. 承認事項

### 1 事務局

- 1) 会員動向(平成27年度分)

平成27年10月 1 日現在

会員数 2,583名

(新入会員 218名 [平成26年度会員数2,441名])

賛助会員 77社 [平成26年度 79社]

承認された

### 2 総務部

- 1) 第44回学会理事配置案について

承認された

- 2) 第44回学会来賓者について

承認された

- 3) 第45回埼玉県医学検査学会開催日について  
 平成28年12月 4 日(日)大宮ソニックシティにて開催とすることで承認された。

### 3 事業部

- 1) 平成28年賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会招待者、案内状について

承認された

- 2) 糖尿病無料相談会派遣技師について

承認された

- 3) 深谷市福祉健康まつり監督医師・実務委員について

承認された

- 4) 全国検査と健康展監督医師・実務委員について

承認された

- 5) 第1回検査室運営研修会について

承認された

### 4 学術部

- 1) 生理検査研究班よりCD-ROMサーバイ実施について

承認された

### 5 精度保証部

- 1) 特になし

### 6 会計部

- 1) 特になし

### 7 精度管理委員会

- 1) 特になし

**IV. 議題****1 会計規程の改訂について**

松岡会計部長より、会計規定第10条に「前項の会計伝票等及び会計帳簿の作成及び保存については、電子媒体によることができる」の一文を追加したいとの発言があ

った。これを受け理事会審議の結果、出席理事全会一致で承認した。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

## 求人案内

## ○医療法人 一成会 さいたま記念病院

採用条件：午前のパートタイム

連絡先：048-686-3111 内線631

検査科 加賀谷

## ○国保町立小鹿野中央病院

採用条件：正職員

連絡先：0494-75-2332 事務長 出浦

## ○医療法人 大宮シティクリニック

採用条件：正職員 臨時職員（パート）

連絡先：048-645-1256 本部長 星野

## ○慶應義塾大学信濃町キャンパス

採用条件：嘱託職員

連絡先：03-5363-3615

人事課 松林 宮崎

## ○東松山市立市民病院

採用条件：正職員

連絡先：0493-24-6111 内線216

管理課採用担当 中村

## ○獨協医科大学越谷病院

採用条件：正職員

連絡先：048-965-9138 職員係 翠田

## ○医療法人 峯昭会 さいたまセントラルクリニック

採用条件：正職員 臨時職員（パート）

連絡先：048-658-3741

採用担当 村松

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載して  
ある連絡先にてご確認をお願いいたします。

## あとがき

先月、2015年のノーベル賞受賞の発表があった。10月5日に発表された生理学・医学賞では北里大学特別栄誉教授の大村智氏が、続く6日に発表された物理学賞では東京大学宇宙線研究所所長の梶田隆章氏がそれぞれの業績が評価され、受賞した。

大村氏は、熱帯地方の感染症オシコセルカ症（河川盲目症）の抗生物質の元になる化学物質を静岡県川奈のゴルフ場近くの土壌から発見したバクテリアから抽出し、治療薬である『イベルメクチン』を開発した。梶田氏は、物質のもとになる最も基本的な粒子のひとつ「ニュートリノ」に質量があることを世界で初めて観測によって証明し、「ニュートリノ」には質量がないと考えられてきたそれまでの素粒子物理学の定説を覆した。2014年の赤崎勇氏、天野浩氏、中村修二氏の3氏の物理学賞の受賞に続き、今年も日本人研究者による受賞ラッシュである。

また、両氏は埼玉県に深く係わり合いがある。大村氏は北本市の総合病院の設立を担ったほか、さいたま市の私立中学・高等学校の名誉学園長を務める。梶田氏は東松山市の出身で、同市内の小、中学校を卒業後、県立高等学校から埼玉大学、東大大学院へ進学した。そのため、ノーベル賞授賞式後に埼玉県より県民栄誉章を贈呈されることも決定した。

日本からこれほど優秀な研究者が多く誕生するのだから、日本もまだ捨てたもんじやない・・・と、思いつつ大村氏、梶田氏の授賞式を楽しみに拝見するとしよう。

(奈良 記)

